

アリゾナ州における日本食等市場調査



2023年3月

米国輸出支援プラットフォーム

(2023年12月更新)

Shutterstock

【免責事項】 本資料にて提供される情報については、生産者や事業者の方々の米国輸出の一助となることを目的としているものであり、正確性、完全性、目的適合性、最新性を保証するものではありませんので、当該情報の採否は、ご閲覧者様ご自身の判断、責任において行ってください。本資料での情報提供に関連して、ご閲覧者様が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び本資料提供者はご閲覧者様に対し一切の責任を負わないものとします。また、本資料は今後もご閲覧者様のご意見やご知見を踏まえて、継続的に見直し、より有用なものとして行きたいと考えております。本資料に関するご意見やご質問は以下までお願い致します。

本レポートに関するお問合せ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
ロサンゼルス
TEL：1-213-624-8855
Email：lag-USPF@jetro.go.jp

はじめに

アリゾナ州は人口740万人程度と、米国の州としては14番目に位置しており、必ずしも市場規模が大きいというわけではない。しかし、半導体の受託生産世界最大手のTSMCがアリゾナ州で大規模工場を建設していることなどから、アリゾナ州の人口は増加傾向が予想されている。2050年には996万人まで拡大すると見込まれるほか、アジア系住人が増加するとみられている。そのため今後、アリゾナ州では急速に日本食ニーズが高まることが予想され、ジェットロとしても注目している市場の1つである。

今般、日系企業の現地展開などに役立てていただくため、現在のアリゾナ州の実態について多角的に分析した本レポートを作成した。アリゾナ州の主要都市の位置関係や人口・世帯年収・人種構成・気候に加え、日系スーパー、アジア系スーパーなどで販売される日本食材の実態を紹介し、アリゾナ州についてより深く知っていただく内容とした。さらに、現地で活躍する日系企業関係者のヒアリングなども記載し、「生の声」を知っていただく内容ともなっている。

本レポートを参考としていただき、アリゾナ州への展開を検討する皆様の一助としていただければ幸いである。

米国輸出支援プラットフォーム

目次

1. アリゾナ基本情報

- _1.1 気候と人口/地図.....5-6
- _1.2 人種比率とアジア人比率.....7
- _1.3 平均世帯年収と今後の予測人口.....8

2. 食環境

- _2.1 日系スーパー/雑貨店.....9-12
 - _2.1.1 他アジア系スーパー/位置...13-17
 - _2.1.2 米国系スーパーマーケット...18
 - _2.1.3 日系食品の輸入会社.....19
 - _2.1.4 消費動向.....20
- _2.2 日本食レストラン
 - _2.2.1 人気レストランの位置.....21
 - _2.2.2 日本食レストラン動向.....22

3. 教育と医療環境

- _3.1 アリゾナの教育環境.....23
- _3.2 医療保険/総合医療機関.....24-25

4. 住宅とレジャー環境

- _4.1 日本人が住むエリアと家賃情報....26
- _4.2 アリゾナのレジャー情報.....27-28

5. ビジネス環境

- _5.1 ビジネスアクセス地図.....29
- _5.2 注力産業/労働力.....30-33
- _5.3 進出日系企業例.....34
- _5.4 アジア系開発企業の進出.....35-36

6. ビジネス環境インタビュー..37

7. 現地ビジネスサポート

- _7.1 公的支援団体GPECのサービス....38
- _7.2 ACA情報/各市の情報サイト.....39

8. 現地情報

- _8.1 日系メディア・コミュニティ.....40
- _8.2 他アジア人コミュニティ.....41
- _8.3 日本のイベント.....42

9. まとめ

1. アリゾナ基本情報 (1.1)気候と人口



アリゾナ州は1912年に米国で48番目の州に昇格した。

今日では、米国先住民の文化の残る州として有名で、日本をはじめ世界中から観光客が訪れる。アリゾナ州は面積が広く標高差も大きいいため、土地によって様々な気候が存在するが、アリゾナ州南部の地域では、温暖な冬と暑い夏が特徴的だ。通常、晩秋から早春にかけては温暖であり、平均最低気温は 60°F(16°C) ほど。11月から2月は比較的寒い期間であり、気温は 40°F(4°C) から 75°F(24°C) となり、2月半ばを過ぎると気温が上昇し始め、日中は暖かく夜は冷たい風が吹く。夏は6月から9月で乾燥した暑さとなり、気温は 90°F(32°C) から 128°F(53°C)、砂漠地帯では 128°F(53°C) を超えることもある。

Arizona - Population and Vital Statistics	2017	2018	2019	2020	2021	2022
<i>All Estimates are as of July 1st (Fiscal Year), ADHS, OEO & EBRC</i>						
Population (persons)*	6,884,547.21	6,982,246.2	7,082,092.57	7,176,401	7,285,370	7,409,189
% Chg from Year Ago	1.29%	1.42%	1.43%	1.33%	1.52%	1.70%

人口:

2022年時点のアリゾナ州の人口は前年比1.70%増の741万人。他州からの移住者も増加しており、2021年7月～2022年6月の一年間で約12万4,900人がアリゾナ州へ移住している。

Reference:

<https://www.azeconomy.org/arizona-population/>

<https://eller.arizona.edu/news/2023/03/arizona-s-economy-remains-resilient#:~:text=Phoenix%20MSA%20population%20rose%20by,with%20natural%20decrease%20of%202%2C400.>

1. アリゾナ基本情報 (1.1)地図



1. アリゾナ基本情報 (1.2)人種比率とアジア人比率

人種比率

	<u>AZ</u>	<u>US</u>
White (not Hispanic)	56.7%	62.6%
Latino/Hispanic	30.3%	17.1%
Black/African American	4.6%	13.2%
American Indian/Alaska Native	5.3%	1.2%
Asian alone	3.2%	5.3%
Native Hawaiian/Pacific Islander	0.3%	0.2%
Two or more races	2.6%	2.4%

2020年時点で米国に住むアジア人は1,700万人を超え、総人口の5.6%を占めている。2023年の調査によると、アリゾナ州におけるアジア人の人口は22万8,292人で、アリゾナ州の総人口の約3.2%を占める。過去の割合から比較すると、1990年代が1.5%、2000年代が1.8%、2010年代が2.8%上昇しており、過去30年間増加し続けている。

最も大きなアジア人コミュニティは、フィリピン人とインド人であり、中国人、ベトナム人、韓国人、そして日本人がそれに続く。またアリゾナ州は台湾に本社を有する、世界最大手半導体メーカーTSMC参入による台湾人の莫大な人口増加をはじめ、2027年までに住民の割合が多種多様な人種グループで構成される州になることが予想される。

アジア人率が高い都市 (2023年)

都市名	人口	アジア人比率	アジア人の人口	2010年からの人口比率の推移
チャンドラー市	27万2,439	10.78%	2万9,361	67.91%
テンピ市	17万8,862	8.59%	1万5,369	41.45%
ギルバート市	26万2,249	5.51%	1万4,444	35.62%
ピオリア市	18万7,733	5.25%	9,855	95.55%
スコッツデール市	23万8,685	4.89%	1万1,676	60.78%
フェニックス市	24万5,685	4.13%	10万,138	22.44%

1. アリゾナ基本情報 (1.3)平均世帯収入と今後の予測人口

平均世帯年収 **\$7万3,450**

(参照: <https://www.statista.com/statistics/205761/median-household-income-in-arizona/>)

2050年予測人口 **996万人 (2022年は741万人)**

(参照: <https://www.azcommerce.com/oeo/population/population-projections/>)

今後の人種構成の変化(%)

	Hispanic	White	Black	Non-Hispanic Native American	Asian*	Other
2020	33.4	53.4	3.8	3.9	3.4	2.0
2030	37.3	49.0	3.9	3.7	4.0	2.1
2040	40.8	45.0	3.9	3.4	4.6	2.2
2050	43.9	41.6	3.9	3.1	5.2	2.2

(参照: <https://ccpr.wpcarey.asu.edu/sites/default/files/popprojections1-13.pdf>)

* 2013年発表人口予測

2. 食環境 (2.1)日系スーパー

日系スーパーマーケット

Fujiya Market

<https://fujiyamarket.com/>

1335 W University Dr #5, Tempe, AZ 85281



* お米、油揚げ、味噌、缶詰などの一部日本産食材も販売可能。

筆者撮影

Fujiya Marketオーナーの藤田氏によると、補習校 (Arizona Gakuen School)にほど近いテンピ市にて30年近く営業しており、New Tokyo Food Marketに次いで老舗の日系スーパーとのこと。藤田氏は元々飲食店出身で、販売商品は主に乾物類や加工食品、アルコール類や若干の生鮮食料品とお弁当 (丼ものは5ドルを切る値段で販売されており、評判は上々とのこと)。

アリゾナ州には大手の日系スーパーがないため、ローカル (特に駐在員)の消費者にとってみれば、品数が豊富でなくても日本食材を求めて足繁く通う店だ。

主には日系大手問屋から商品を卸されているが、2ヶ月に一度はロサンゼルスに行き、独自でアリゾナ州には無い日系問屋を周り仕入れを行っている。

2. 食環境 (2.1)日系スーパー

New Tokyo Food Market

3435 West Northern Ave.

Phoenix, AZ 85051



筆者撮影

アリゾナ州で30年以上の最古参の日系スーパー。グレンデール市は日系人が古くから住み着いているエリアであり、前述のFujiya Marketとは競合しない。

品揃えは食品全般、冷凍冷蔵品、アルコール飲料、日本的な生活雑貨、学用品など十分な品揃えであるが、生鮮食品の取り扱いはない。一番の売り上げはスナック菓子。

以前は店舗奥のスペースで飲食もでき、うどんなどを提供していたが、現在は小売品のみを提供している。主に日系大手問屋から仕入れをしている。

2. 食環境 (2.1)日系スーパー

日系スーパーにおける米・醤油の商品点数と商品価格

Fujiya Marketでは、米は20種類、サイズ別で販売されている。日本人以外のアジア人や米国人がよく購入する「錦Nishiki」は\$26.99、「玉錦」は\$46、「雪花」は\$25.39（全て15ポンド）。醤油は12種類ほど。キッコーマンとヤマサが主で、キッコーマン1Lサイズが\$6.49、生醤油200mlサイズが\$3.99-\$4.99で、450mlサイズは\$6.79-\$7.39。（※1ポンド=0.45キロ）

New Tokyo Food Marketでは、米は10種類（シーズンにより異なる）、醤油は18種類置いてある。

「錦 Nishiki」は\$26.99、「玉錦」は\$41.99、日本から仕入れるコシヒカリの「彩錦 Ayanishiki」は11ポンドで\$31.99。醤油はFujiya Marketと同じくキッコーマンとヤマサが主流。ヤマサの減塩醤油が\$9.69、有機醤油は750mlで \$10.49。

両店とも、すしの販売はしていない。



2. 食環境 (2.1)雑貨店

Daiso

[1860 W Chandler Blvd, Chandler, AZ 85224](#)

2023年3月にくら寿司や韓国系ベーカリー、ドーナツ、レストランなどが入るプラザにオープン。アリゾナ州においての第一号店であり、オープン前からアジア系消費者の間で話題に上っていた。基本販売価格は\$1.75から、商品により\$12.25まであり、値段設定はカリフォルニアと同じ。食事や買い物ついでに寄れるロケーションと利便性から、開店当初から賑わいを見せる。台湾系スーパーマーケット99 Ranch Market(p.16ほか参照)と同じ並びにある関係か、食品の取り扱いが少なめの印象。

* 日本産菓子類が一部販売されている。



筆者撮影

Cutie

[15034 N Cave Creek Rd #1, Phoenix, AZ 85032](#)

[1228 W University Dr, Mesa, AZ 85201](#)

Daisoと類似の商品を販売する小売店。メサ市とフェニックス市に2店舗あり。ダイソー店舗と変わりなく品揃えは豊富（各店舗約1万点の品揃え）。基本的に販売価格は\$1.75だが、商品によっては\$3から\$5の商品も多々ある。日本のお菓子やカップ麺などが好評。フェニックス店での客層はヒスパニックが多くみられ、現地の情報によると、パンデミック中でも週末は人の列が絶えなかった。



筆者撮影

2. 食環境 (2.1.1)日系以外のアジア系スーパーマーケット

アジア系人口がもっとも多い地区であるメサ市とチャンドラー市。この2都市にまたがって通る約2マイルの Dobson Streetが、通称アジアン通りと呼ばれている。

主に中華系と韓国系のスーパーマーケットや飲食店が建ち並び、アジア系商品が豊富に揃う。

Asiana Market

Mesa 1135 S Dobson Rd #104, Mesa, AZ 852027 <http://asianamarket.com/>

Glendale 4410 W Union Hills Dr A-1, Glendale, AZ 85308 <http://asianamarket2.com/>

韓国系スーパーマーケット。メサ店は補習校であるアリゾナ学園のそばであることから、そこに通う生徒の保護者がよく利用している。現地日本人ブロガーによると、スーパーの中にフードコートがあり、店内で購入した弁当やパンなどを食べながら社交の場となっている。また、現地日本人スタッフ (Glendale店)によると、韓国系のLee Lee International Supermarkets(p.14参照)に対抗して東欧食品を充実させていて、実際に東欧人の客も増えているとのこと。ただし、コーナーの大きさや品ぞろえは、Lee Leeの方が充実していた印象が見受けられる。

店内フードコートには4店舗(スンドゥブ・ビビンパ店、ジャージャー麺店、韓国風すし店、とんかつ店) のテナントが入っており、カウンター席が5~6席、6人掛けテーブル席約7つが設置されている。



Asiana Kitchen



B-Bob



Katsu



Paik's Noodle



Tour Les Jours



Secret of Beauty



Korean Red Ginseng



KPOP Goods

フードコートにおける
レストラン店舗

<https://asianamarket.com>

2. 食環境 (2.1.1)日系以外のアジア系スーパーマーケット

LEE LEE INTERNATIONAL SUPERMARKETS

Chandler 2025 N. Dobson Rd., Chandler, AZ 85224 <http://leeleesupermarket.com/>

Peoria 7575 W. Cactus Rd., Peoria, AZ 85381

Tucson 1990 W. Orange Grove Rd., Tucson, AZ 85704

Asiana Marketのライバル。フェニックス市周辺に2店舗、ツーソン市に1店舗展開。フェニックス市の多様性を反映して海外30カ国以上の地域からの輸入食材を取り扱う。

ほかの同地アジア系スーパーと比較して、カリフォルニア産米商品ラインナップが韓国系・中国系ブランド米より充実している印象。



筆者撮影

BRINGING YOU FOOD FROM THE FOLLOWING REGIONS

Africa
Argentina
Australia
Brazil
Cambodia
Canada

Caribbean
China
Colombia
Croatia
England

Finland
Germany
Hawaii
Holland
Hong Kong

India
Indonesia
Japan
Korea
Malaysia

Mexico
Middle East
New Zealand
Pakistan
Cambodia
Philippines

Sri Lanka
Thailand
Vietnam
Sweden
Russia
United States

海外からの輸入品が多いのが特徴

2. 食環境 (2.1.1)日系以外のアジア系スーパーマーケット

MEKONG SUPERMARKET

Mesa 66 S. Dobson Rd., Mesa, AZ 85202 <https://mekongplaza.com/>

Mekong Plazaの中に出店をしているスーパーマーケット。Plaza内にはフードコートやレストランなど約20店舗以上が軒を連ねる。現在Mekong Plazaがある向かいの土地に3万3,000平方フィートのアジア系レストラン・小売店が入るモールの建設が計画されており、2021年度に承認された。



筆者撮影

AZ International Market

Mesa 1920 W Broadway Rd, Mesa, AZ 85202 <https://www.facebook.com/AZInternationalMarketplace/>

Mekong Supermarketと同じオーナーが2016年にオープンした。



2. 食環境 (2.1.1)日系以外のアジア系スーパーマーケット

H Mart

Mesa 1919 W Main St. Mesa, AZ 85201 <https://www.hmart.com/>

2020年にオープンした韓国系スーパーマーケット。他のアジア系スーパーマーケットと比べて全体的に価格が少し高めであり、モダンな造りになっている。韓国系のフードコートが充実しており、日本産品も豊富。日系人主婦層によると、刺身など生魚に関してはH Martで購入する人が多いそうだ。



筆者撮影



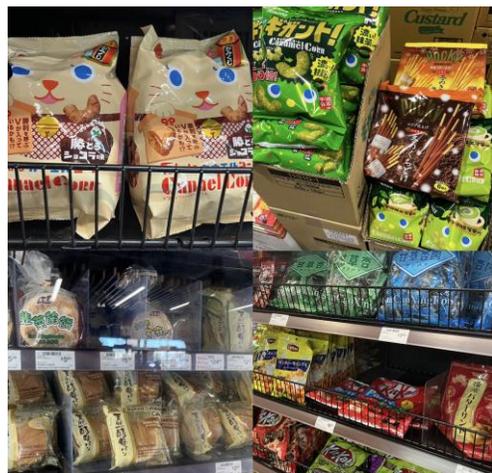
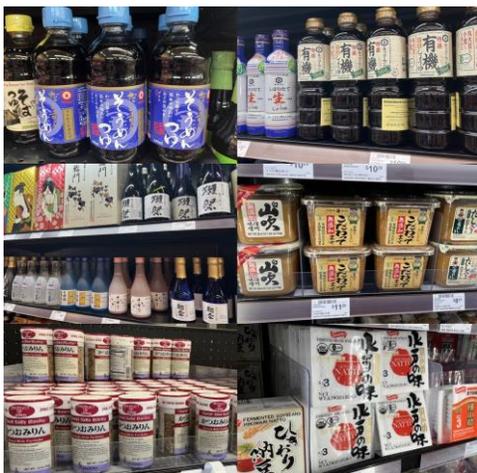
UNIQUE OFFERINGS, TASTY BITES AND EXCLUSIVE CUISINES ARE ALL TOGETHER IN ONE PLACE ONLY AT H MART MESA.



99 Ranch Market

Chandler 1920 W Chandler Blvd., Chandler AZ 85224 <https://www.99ranch.com/>

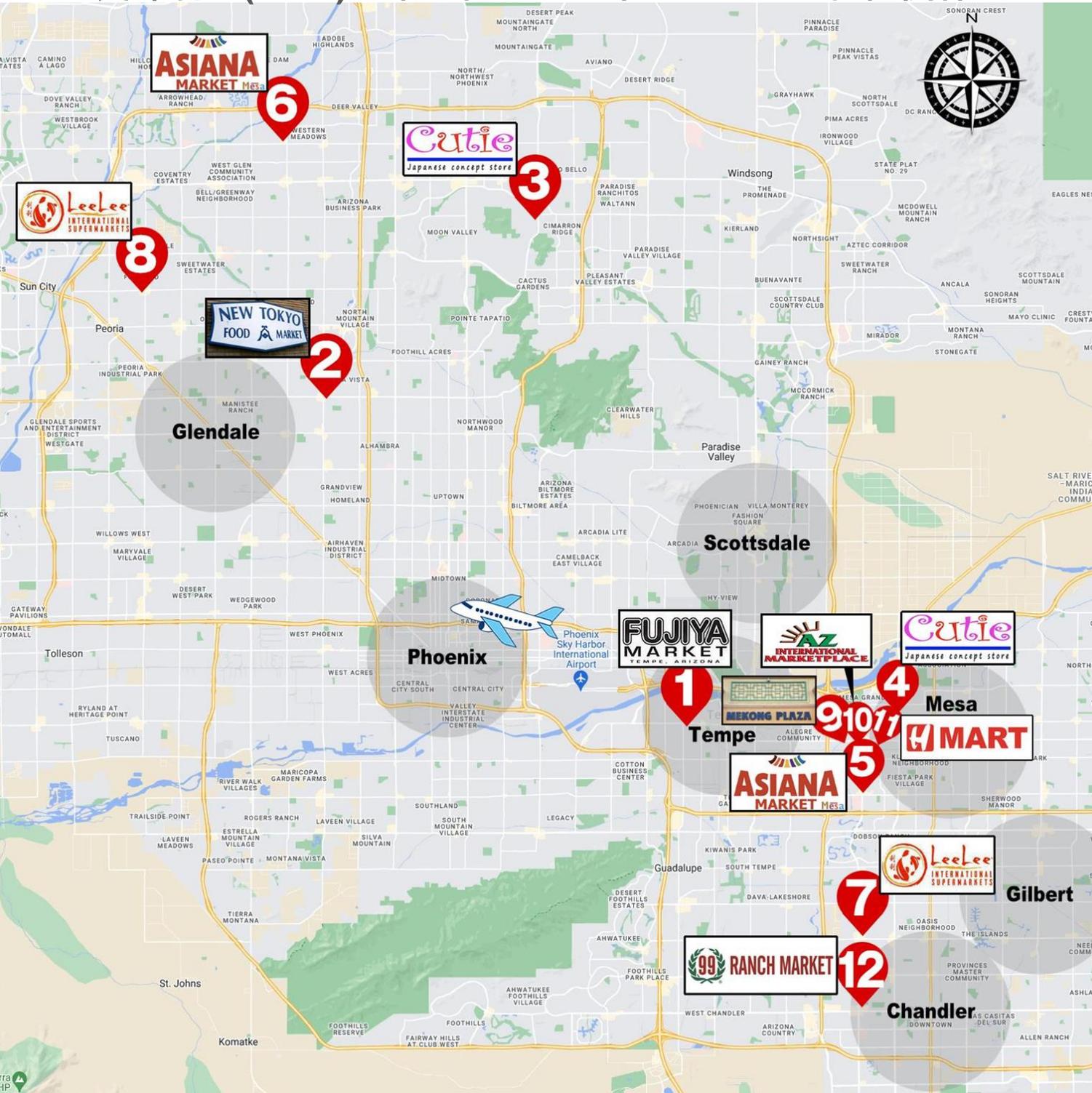
台湾系スーパーマーケット。2021年にグランドオープン。全米でもアジア系スーパーマーケットとして最も店舗数が多いのが特徴。水槽に入った生きた新鮮な魚の購入が可能で、店内にはフードコートも。



* 日本産お菓子類、調味料、味噌、飲料が一部販売されている。

筆者撮影

2. 食環境 (2.1.1)日系と他アジア系スーパーの位置関係



1. Fujiya Market (テンピ)
2. New Tokyo Food Market (フェニックス)
3. Cutie(フェニックス)
4. Cutie(メサ)
5. Asiana Market (メサ)
6. Asiana Market (グレンデール)
7. Lee Lee Int't (チャンドラー)
8. Lee Lee Int't (ピオリア)
9. Mekong Supermarket (メサ)
10. AZ Int'l Marketplace (メサ)
11. H Mart (メサ)
12. 99 Ranch Market (チャンドラー)

2. 食環境 (2.1.2)米国系スーパーマーケット

米系スーパーマーケットにもアジア系食材を販売するコーナーがあり、アジア系消費者はもちろのこと、昨今のアジアンフードブームがアリゾナ州にもしっかりと根付いている様子が窺える。

- ・ Fry's Food Stores (127店舗)

<https://www.frysfood.com/>

- ・ Safeway (104店舗)

<https://www.safeway.com/>

- ・ Sprouts Farmers Market (44店舗)

<https://www.sprouts.com/>

- ・ Whole Foods Market (10店舗)

<https://www.wholefoodsmarket.com/>

- ・ AJ's Fine Foods (11店舗)

<https://www.ajsfinefoods.com/>

- ・ Trader Joe's (18店舗)

<https://www.traderjoes.com/>

- ・ Costco (18店舗)

<https://www.costco.com>



筆者撮影



2. 食環境 (2.1.3)日系食品の輸入会社

日本食輸入卸会社大手3社

1. **JFC International** 7815 S Hardy Dr, Tempe, AZ 85284
2. **Mutual Trading** 5402 W Roosevelt St # 104, Phoenix, AZ 85043
3. **Wismettac Asian Foods** 5522 W. Roosevelt, Suite 6 & 8. Phoenix, Arizona 85043

現在、Mutual Tradingはロサンゼルス Distribution Centerから週3回、配送を行っている。

JFCをはじめ倉庫の拠点はロサンゼルスベースが多く、アリゾナ州へ配送するコストがかかるためか、アジア系スーパーマーケットはロサンゼルス市場と比べて若干割高なイメージが見受けられた。

ラーメンや寿司の食材などがここ数年商材として伸びている。日本人がオーナーとして運営する飲食店は数少ないが、アジア系の飲食店で日本食のメニューが増えている傾向があり、そうした店からの発注が増えている。

すしの消費は上昇しており、すしシェフの人材が足りない状況。現在すしマシンの需要が増えており、今後もすしブームは続くのではないかと想定される。

水産卸

1. **International Marine Products Inc.** 3801 E Roeser Rd, Phoenix, AZ 85040

2. 食環境 (2.1.4)消費動向

消費パターン

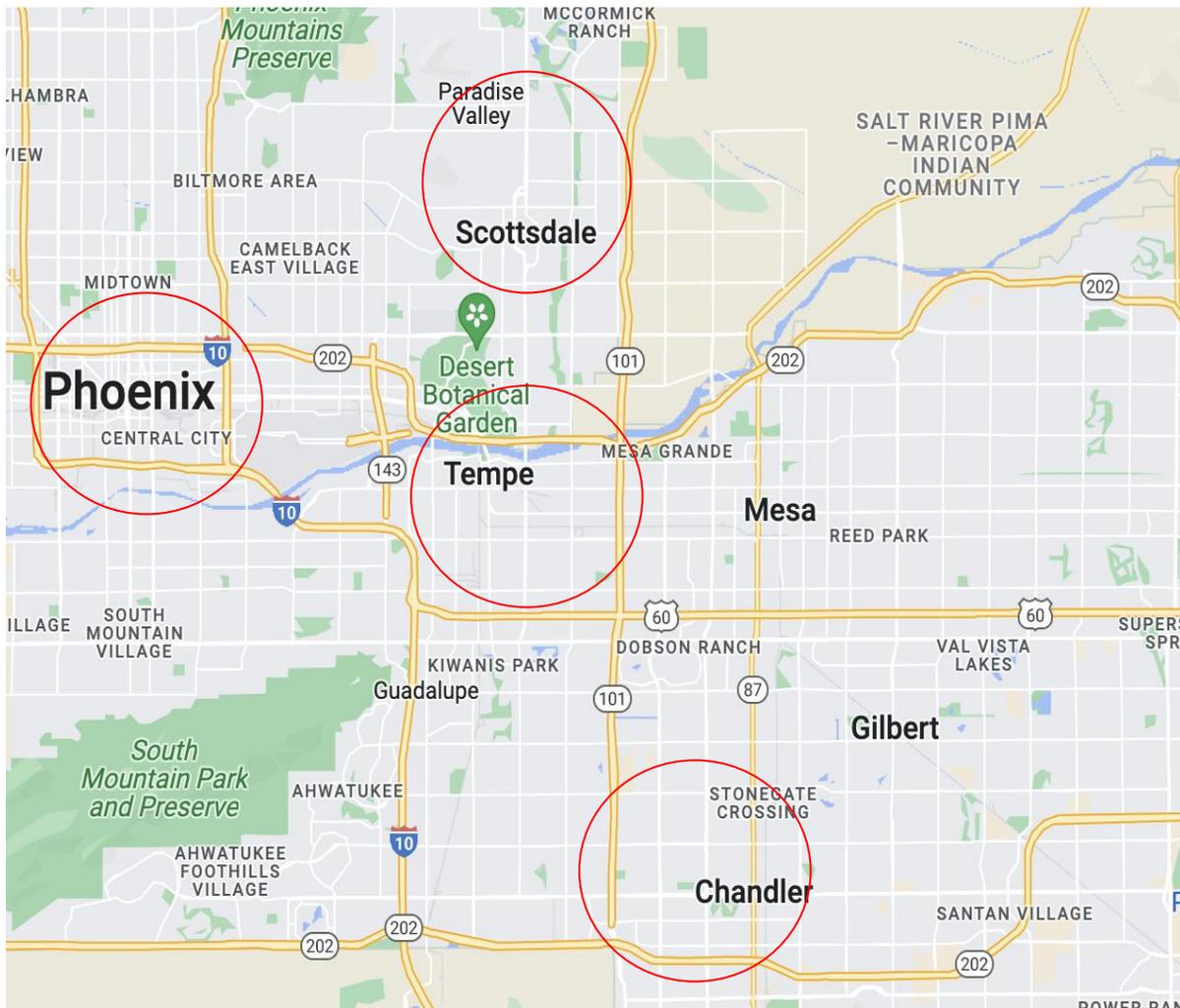
アリゾナ州では、季節的に大きく2つに分けられる。4月～9月は大変暑いシーズンとなり、アリゾナ州の住民も外出を極力避け、室内で過ごす時間が多くなる。

一方、カナダや米国東海岸から寒さを逃れて短期的に移住する者をスノーバードと呼び、彼らは10月から3月までを暖かいアリゾナ州で過ごす。そのため、スノーバードが多い時期にいかに売上を上げるかが、ビジネスを行う上で大きなカギとなってくる。

しかしコロナ以降、こうした消費パターンに大きな変化が訪れるのではないかとされている。それは、リモートワークが生活の一部として馴染み、ロサンゼルスやサンフランシスコといった大都市から生活の質を求めてアリゾナ州へ移住する人が後を絶たないためだ。そのため、都会では当たり前にある日本食レストランや日本食材などが今後、急速に求められる可能性が高い。

アリゾナ州に住む日本人主婦（30代～40代）数人に話を聞くと、ロサンゼルスまで5時間ほどドライブし、日本食材を求めてロサンゼルス近郊まで行くこともあるという。そのため、アリゾナ州における日本人駐在員の間では、ロサンゼルスの値段を把握している人も多く、値段を比較され、アリゾナ州での購買に影響があるという。

2. 食環境 (2.2.1)人気日本食レストランの位置関係



フェニックス市
[Ramen Kagawa](#)

[Kura Sushi](#)

[Hana Japanese Eatery](#)

[Cherry Blossom Noodle Cafe](#)

スコッツデール市
[Hiro Sushi](#)

[Shinbay](#)

[Sushi Sen](#)

[Sakana](#)

[OBON Sushi Bar Ramen](#)

チャンドラー市
[Hachi Ramen](#)

[Origami Ramen](#)

[Shimogamo](#)

[Jinya Ramen](#)

テンピ市

[Kuka Sushi & Izakaya](#)

[Tampopo Ramen](#)

[Hachi Ramen](#)

2. 食生活 (2.2.2)日本食レストラン動向

フェニックス都市圏における日本食レストランの動向

アリゾナ州内にある日本食レストラン軒数は、全米内でハワイに次ぎ14位、その数は491軒に及ぶ(JETRO/2022年日本食レストラン動向調査参照。<https://www.jetro.go.jp/world/reports/2023/02/60677c66b878273d.html>)。数こそ多いが、日本人オーナーによる監修で経営され、かつ本物の日本の味を出す店舗はまだ多いとは言えない。すしのみ、ラーメンのみという専門性を持つのではなく、両方提供する店舗が多く見受けられる。

2023年で創業16年目を迎える**Hana Japanese Eatery**は、家族経営で日本から取り寄せる鮮魚を使ったすしから居酒屋料理、ラーメンまで、こだわりの日本料理を出すことで知られている。2023年3月に、アリゾナ州内のあらゆるジャンルの有名レストランが自慢料理を出して競い、美食家たちによって勝者が選ばれる「ディバウワー料理クラシック」で、最も名誉のある”Best in Show”にロリー・ハシモト氏(Hana Japanese Eateryのオーナー)によるもち米シュウマイが選ばれた。

スコッツデール市内に店舗を構える**Hiro Sushi**は「おすしが美味しいレストラン」といえば必ずその名が上がるほど、不動の人気を誇る。同市内にある**Sushi Sen**も、良心的な値段で新鮮なおすしが食べれるランチメニューが人気で、ロール\$5均一を売りものにしたハッピーアワーは、米国人から評判が高く、ディナーも賑わいを見せる。

幅広いメニューに安定した味、良心的な値段設定で**Kuka Sushi & Izakaya**は家族連れから、アリゾナ州立大学の学生にも人気がある。スコッツデール市とチャンドラー市に2店舗展開する開店すし**Kura Revolving Sushi Bar**(くら寿司)は一皿\$3.10と割高で、日本のような庶民的なイメージはない。

ターゲットとなる顧客を絞り、料理と一緒にペアリングする日本酒とワインを提供する高級日本食レストランも存在する。スコッツデール市にはクリタ・シンジ氏によるOmakaseメニューが人気の**ShinBay**、チャンドラー市には、昨年店内をリノベーションしバーエリアを作った**Shimogamo**、両店とも2022年から2023年にかけてOmakaseメニューの大幅値上げをしたが人気絶えない。

アリゾナ州内に3店舗展開している**Obon Sushi Bar Ramen**は米国人に好まれる辛味噌ベースのシグネチャーラーメンObonラーメンほか、6種類のラーメンを提供している。フェニックス市内で、米国人オーナーシェフが手がける**Ramen Nishikawa**では出汁を20時間かけて作り、製麺機を導入し麺の鮮度にもこだわったラーメンを提供している。日本で修行をしたラーメン職人のいる**Hachi Ramen**は炒飯や唐揚げなどサイドメニューにも人気があり、アリゾナ州内では少ない生ビールを出す店でもある。

3. 教育と医療環境 (3.1)アリゾナの教育環境

Arizona Gakuen School

<https://arizonagakuen.school.org/>

4635 S. Lakeshore Dr., Suite #101 Tempe, AZ 85282

アリゾナ州の日本語補習学校。日本語教育と日本文化の継承を目的に、未就学児向け親子クラス、幼稚園から中等教育まで現在の生徒数は250人近く。各季節の文化イベントや部活動もあり、Flagstaff(フラッグスタッフ市)やTucson(ツーソン市)のような遠方から通う生徒も多くいる。

Public School (公立校) 2,421校

日本の公立校とさほど変わりはなく、住所によって学区が決められており、基本的にその指定された学校へ通うことになる。

Private School (私立校) 447校

日本のように教育環境を求めて私立校を選択する家庭もあるが、米国では比較的宗教的な理由で選ぶ傾向があるように見受けられる。また授業料は年間3万ドル(約430万円/\$=¥144で計算)を越える学校も多々あり、高所得の家庭が行かせる学校と認識されている。

Charter School (公募型研究開発校) 560校

新しいタイプの公立校で保護者や地域住民、教師、市民活動家によって公的資金の援助を受けて設立・運営されている。基本的に授業料等は無料であり、入学希望者が殺到した場合は中立性を守るため抽選によって決められる。

*学校の検索方法は、それぞれの学校のホームページを確認するほかに、以下のウェブサイトで調べることができる。

Great Schools

<https://www.greatschools.org>

Zip codeを入力すると、その学区内にある学校の基本情報(小・中・高)が出てくる。学校ごとにテストのスコアなどの成績から算出される10段階評価など、学校を選ぶ際に役立つ情報を得ることができる。

Niche

<https://www.niche.com>

このサイトでは、基本的な学校情報はもちろんのこと、学校内の人種の比率や、州内の一斉テストなどによってランク付けがされているため、この情報を元に学校選び、並びに住宅選びをする家庭が多い。

3. 教育と医療環境 (3.2)医療保険

まず、米国の医療保険は一般的に公的医療保険(高齢者や障害者等対象)と民間企業が提供する民間医療保険の2つに分かれる。ここでは民間医療保険について説明する。

民間保険は、民間の保険会社が提供している保険であり、会社によって保険料やサービス内容に違いがある。その保険会社が提携している医療機関(ネットワーク内と言う)であれば、比較的自己負担額が少なく、ネットワーク外だと高額になる可能性がある。

ただし、日本の医療保険のように、どの医療機関を利用しても3割負担とはならないため、注意が必要である。

また治療内容によっては、保険会社がカバーする範囲内であるかどうかによっても、自己負担額は異なるため、自身が加入している保険内容を事前にしっかり把握する必要がある。

米国では、保険に加入後、かかりつけ医の設定をすることが多く、万が一病気になった場合、まずはかかりつけ医に診てもらい、その後、必要であれば専門の医療機関を紹介してもらう。

いずれにしても、米国の保険料並びに医療費は高額である。

例)ニューヨークで盲腸の手術をして1~3日入院した場合

入院費のみで1万4,000ドル~4万1,000ドル(約203万円~595万円)

このほかに診察料、施設利用料、検査料、調剤技術料などが加算される。

また、救急車も有料であり、都市によるが、300~500ドル(約4万3,000円~7万2,000円)が相場となっている。

米国の医療保険のメリットは、主治医制で自分に合ったドクターを選べること、治療前に見積もりを出してくれること、プランによっては眼鏡やコンタクトレンズなども保険対象になることもある。逆にデメリットは、医療費が高額なこと、病院が自由に選べない、また契約内容によっては医療サービスが大きく異なり、受けたい時にすぐに受診できない可能性がある。

いずれにしても日本の制度と大きく異なるため、保険制度を事前に知っておくことが必要であり、何より日頃から病気にならない身体作りを意識することが大切である。

3. 教育と医療環境 (3.2)アリゾナの総合医療機関

フェニックス市

(1) Mayo Clinic Hospital

所在地：5777 East Mayo Blvd., Phoenix, AZ 85054

電話：(480) 342-2000

URL：<https://www.mayoclinic.org/patient-visitor-guide/arizona/campus-buildings-maps/mayo-clinic-hospital>

診療科：内科、外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、脳神経外科、整形外科、歯科口腔外科、形成外科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科・ペインクリニック、精神神経科、リハビリテーション科、放射線科、腫瘍科、感染症科、救命救急科、家庭医学科

概要：Urgent Care Unit有 / Emergency Department有

スコッツデール市

(1) HonorHealth Scottsdale Osborn Medical Center

所在地：7400 East Osborn Rd., Scottsdale, AZ 85251

電話：(480) 882-4000

URL：<https://www.honorhealth.com/locations/hospitals/scottsdale-osborn-medical-center>

診療科：内科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、脳神経外科、整形外科、歯科口腔外科、形成外科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科・ペインクリニック、精神神経科、リハビリテーション科、放射線科、腫瘍科、救命救急科、家庭医学科

概要：Urgent Care Unit有 / Emergency Department有

メサ市

(1) Banner Desert Medical Center

所在地：1400 South Dobson Rd., Mesa, AZ 85202

電話：(480) 412-3000

URL：<https://www.bannerhealth.com/locations/mesa/banner-desert-medical-center>

診療科：内科、外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、整形外科、麻酔科・ペインクリニック、精神神経科、リハビリテーション科、放射線科、腫瘍科、救命救急科、家庭医学科

概要：Urgent Care Unit有 / Emergency Department有

Reference: https://www.la.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/healthfacility_list.html#menu13

4. 住宅とレジャー環境 (4.1)日本人が住むエリアと主要都市の家賃情報

3 Bed/2 Bathroom 平均家賃 (アパート)/広さ : 1,200sqft - 1,500sqft

都市名	家賃	都市名	家賃
チャンドラー市	\$2,353	ディアバレー市	\$1,848
スコッツデール市	\$3,500	サプライズ市	\$2,350
フェニックス市	\$3,250		

チャンドラー市周辺住宅のイメージ 3 Bed/2 bath (1,350 sqft)/家賃 : \$2,100~\$2,200

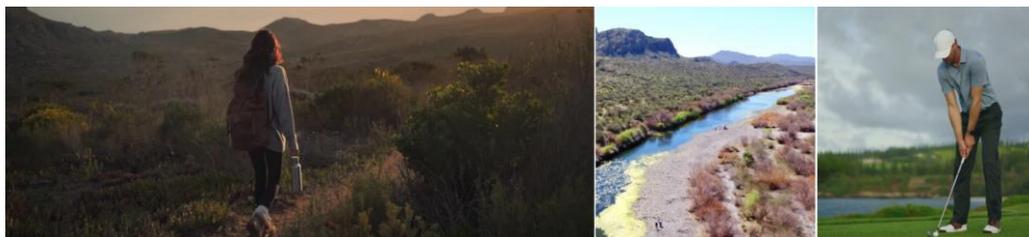


apartments.com

4. 住宅とレジャー環境 (4.2)レジャー環境

温暖な気候に恵まれたアリゾナ州は、年間を通してアウトドアでのレジャーが楽しめる。

ハイキングコース、マウンテンバイク、ロッククライミング、オフロード車が利用できるトレイルや美しい景色が望める河川は、合計で数百キロにも及ぶ。



400以上のハイキングトレイル

300日以上が1年間の中で晴天

300以上のゴルフコース

音楽とアート

ワールドクラスの交響曲やバレエ、独創的なイベント会場、料理の祭典、名声のある美術館に、毎月開催されるアートウォークは大きな賑わいを見せる。

この街で音楽・芸術を求めたら、退屈することはないだろう。



230以上のアートギャラリー

50以上の舞台芸術劇場

40以上の美術館

4. 住宅とレジャー環境 (4.2)レジャー環境

製造過程と素材にこだわる、食への意識の高さ

フェニックス市内に店を構えるCocina Madrigalは、口コミサイトYelpの2022年トップ100リストの中から、ベストレストランに選ばれた。また同市内にレストランを数店舗をもつシェフ、クリス・ビアンコ氏が2022年ジェームス・ビアード最優秀レストラン経営者に選ばれた。同シェフの店で出すピザは、「全米で一番美味しい」と雑誌に載ったこともあり、観光客が食べて帰りたい食事としても有名。



Photo Credit: Cocina Madrigal



Photo Credit: Netflix

フェニックス都市圏にある醸造所は224。これらの醸造所は2021年には12億ドルの経済価値を生み出した。



フェニックス都市圏内で、ファーマーズマーケットは18箇所(小規模を除く)で開催。また、クラフトコーヒーを出しショップ内装にもこだわったカフェは24店舗に及び、需要供給ともに食への意識が高い層が多いことが窺える。

応援したいメジャースポーツチームが沢山！

NFL, MLB, NHL, NBA, WNBA, USLを含む計7つのプロスポーツチームが、アリゾナ州に本拠地を置く。春にはMLB主要チームがスプリングキャンプで市内各球場を訪れる。



5. ビジネス環境 (5.1)ビジネスアクセス地図

アリゾナ州フェニックス市のビジネス環境

効率の高いロケーションに位置するアリゾナ州

アリゾナ州は信頼のおける社会的基盤施設が既に整っており、各企業の需要はとても高い。低コストで規制の少ない運用環境があり、企業は即日のトラック輸送で約 3,500万人の消費者にサービスを提供できるなど、カリフォルニア州、そしてほかの西海岸地域からのアクセスに適した位置にある。

高速道路

I-10、I-8、I-40経由で、主要市場および西海岸の港への輸送が可能

- ロサンゼルスとサンディエゴまで車で 5時間
- 米国とメキシコの国境まで車で 3時間
- ダラス、オースティン、ソルトレイクシティは 2日以内に配達可能



(Reference: <https://www.gpec.org/industries-operations/operations/ecommerce-logistics-distribution/>)

5. ビジネス産業 (5.2)注力産業

フェニックス都市圏の産業

社会的生産基盤が整い、コミュニティや選出された指導者によってサポートされている様々な産業が存在するアリゾナ州。ビジネス産業にはとても適しているエリアと言える。

- **高度なビジネスサービス**
フェニックス都市圏は、米国西部の中でも最も人件費を抑えやすいエリアの一つである。
- **航空宇宙と防衛**
20世紀半ばよりアリゾナ州には航空宇宙と防衛の分野で豊かな歴史がある。
- **自動運転車と電気自動車**
フェニックス都市圏ではAV(自動運転車)/EV(電気自動車)業界の進化における中心地であり、無人運転車のトップ都市でもある。
- **クリーンテック（グリーンテック）**
年中晴天の気候、そして自然災害がほぼ無い環境は、クリーンテクノロジー企業により有利に利用されている。
- **サイバーセキュリティ**
フェニックス都市圏に大規模なサイバーセキュリティがあり、大手企業および新興業界の創設者にとっては格好のロケーションとなる。
- **金融業務**
フェニックス都市圏には金融および保険業務部の設置、拡大させるのに米国内でもトップレベルの市場がある。
- **ヘルスケアとバイオメディカル**
フェニックス都市圏では今後10年間で9万5,000を超える医療関連の仕事が増えると予想されている。
- **半導体**
フェニックス都市圏には、3万283の半導体およびそのほかの電子部品製造の仕事が存在する。
- **ソフトウェア**
フェニックス都市圏は技術革新への道を切り開いており、その急速な成長率でソフトウェア企業にとっての最高の都市へと変化を遂げた。
- **ウェアラブルビジネス**
安定したサプライチェーンと有能な労働力により、フェニックス都市圏はウェアラブルテクノロジービジネスにとって理想的な場所となっている。

5. ビジネス産業 (5.2)注力産業

エコシステムの二大企業



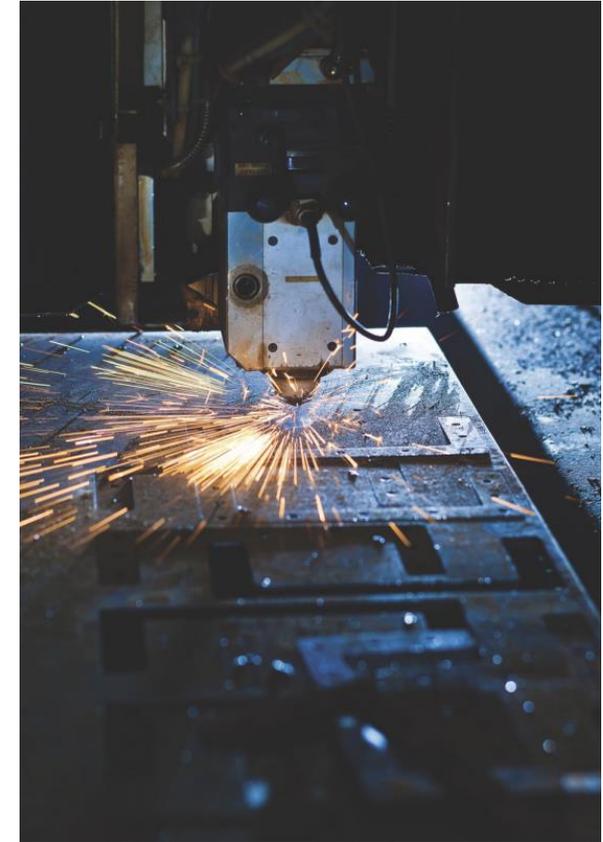
インテル 200億ドル相当の投資拡大

- チェンドラー市に2カ所、新しい製造工場を設立
- 3,000件の新しいハイテク、高賃金の仕事を提供
- 3,000件の建設業の仕事を提供
- アリゾナ州で1979年より40年以上拠点を置くインテルの同州への総投資額は、2024年の工場完成時には500億ドルを超える見込み。



TSMC 400億ドル相当の投資拡大

- 4mm/3mmのチップを生産するフェニックス市の新しい製造工場
- 4,500人の従業員
- TSMCの拡張発表より、半導体関連のメーカーおよびサプライヤーが新たに数十社、フェニックス都市圏経済協議会(GPEC:The Greater Phoenix Economic Council)のパイプライン事業に参入



(Reference: <https://www.gpec.org/industries-operations/industries-in-greater-phoenix/semiconductors/>)

5. ビジネス産業 (5.2)労働力

アリゾナ州最大級の雇用をもつ民間企業 (従業員数)



Reference: <https://www.azcentral.com/pages/interactives/news/local/arizona-data/arizona-republic-100-largest-companies-hiring-in-phoenix-arizona/>

各社ウェブサイト

5. ビジネス産業 (5.2)労働力

アリゾナ州の人口統計と労働力

アリゾナ州は世界に通用する能力を兼ね備えた人材が集まる場所であり、新興産業でも需要の高い分野に対応できる、熟練された多様な労働力が期待できる。

地域の大学、短大、専門学校の卒業生は高い水準の教育を受け、現在そして将来の職務においても、その優れた能力を発揮する準備ができています。

495万人

フェニックス市における人口は495万人で、2031年までに581万人に増加すると予想される。

257万人

フェニックス市には257万人を超える非常に競争力のある人材が存在する。

37.6歳

平均年齢は37.6歳であり、全米の平均(38.8歳)よりも若い。

40以上

40を超える大学や、そのほかの教育機関が様々な業界、市場での即戦力となる人材育成に力を入れている。

Reference: GPEC(<https://www.gpec.org/doing-business-here/demographics-workforce/>)

5. ビジネス産業 (5.3)アリゾナ州への進出日系企業例

都市名	業種	従業員数
東京エレクトロン	半導体製造装置	2002(北米合計数)
ダイフク	半導体	20
HITACHI	半導体	11
IRISオーヤマ	家電・生活用品	627
三菱ガス化学	化学品	111
SUMCO	半導体部品	362
ブリヂストン	タイヤ	28
JX金属	電子・非鉄金属	70

(参照: Buzzfileおよび各社ウェブサイトに基づき作成)

5. ビジネス環境 (5.4)アジア系開発企業の進出

台湾ディベロッパー/Lee Chi Investment Group

アリゾナ州におけるTSMCの大規模工場の建設を受け、北フェニックス市に初のアジア系モールの建設を計画。

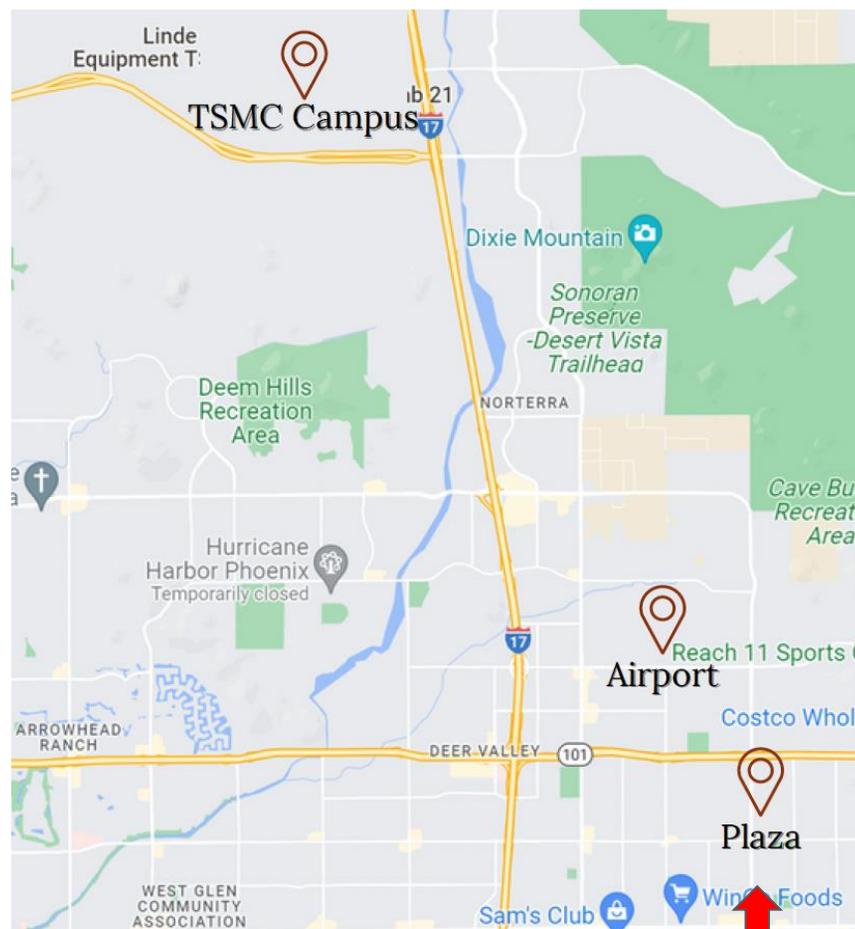
これまでアジア系スーパーはフェニックス市の南東側に固まる傾向にあったが、TSMC参入によるアジア人口の増加を見込み、アクセスの良い好立地にアジア系モールを展開予定。

所有地概要

- ゾーニング 2 ・ フェニックス市
- Deer Valley空港/卸業者から車で5分
- TSMCから車で15分
- ハイウェイSR51、Loop101、I-17に隣接
- アジア系スーパー事業組み込みの可能性を持つ

交通量データ

- 7thストリート北 : 29,807 VPD (1日あたりの自動車通行台数)
- 7thストリート南 : 32,654 VPD
- Union Hills Drive : 20,674 VPD
- Union Hills Drive : 25,2023 VPD



Reference:

Lee Chi Investment Group Marketing Packet 2023 <https://www.808unionhills.com/info>

ショッピングモール建設予定地

5. ビジネス環境 (5.4)アジア系開発企業の進出

Lee Chi Investmentのプロジェクトの展望とタイムライン

台湾開発企業Lee Chiがフェニックス都市圏最大級のアジアショッピングセンターの発展計画を進めている。99 Ranch Market、85°Cベーカリーカフェ、鼎泰豊（ディンタイフォン）など世界展開している大きな店舗、および米国内でも知名度の高い店舗の導入を目指す。同プラザには銀行、医療クリニック、法律関係の店舗も入り、「用事が一つで済む」利便性も売りにする戦略。

2023年4月までに契約締結を終え、2023年10月までには最初のテナントを受け入れ、2024年1月には店舗オープンを予定。



6. ビジネス環境インタビュー

JFC International Inc. アリゾナオフィスマネージャー（2023年5月）

アリゾナ州駐在10年目に入るアリゾナJFCマネージャーに、今後のアリゾナ州日本食業界への展望について意見を聞いた。「アリゾナ州の日本食市場は今後発展するポテンシャルが大いにある。米国全体に言えることだが、コロナ以降に健康な食生活への意識にも変化があり、日本食＝ヘルシーのイメージは強く、需要が増えると予想できる。米系スーパーでもアジアのセクションが増えていて、日本酒の需要が伸びている。インフレの懸念はあるが、ほかの大都市に比べると安価な生活費に惹かれ、これからもアリゾナ州に消費者が移ってくるポテンシャルが高い。これもインフレの影響か、出荷個数で言うとレストランよりもスーパーの方が伸びていることから、自宅でも気軽に作って食べることのできる、キットなどが受けるかもしれない。

日本食のレストラン業界のカテゴリーにも変化が起きていて、従来までのような「見よう見真似」の日本食ではなく、「本物」を提供しないとビジネスとして生き残るのは難しいと考える。また、米国人が入りやすいようにアニメを使うなど、時代に合わせたマーケティング戦略も大切である。」

Shimogamo レストランオーナー（2023年5月）

コロナ禍をきっかけに現在のオーナー（2代目）が経営者となりメニュー、商品単価、店舗内装などを改善し、ここ3年で店舗の方向転換を実行。日本人が経営するレストランが少ないため、より日本で食べれるような味を再現し、食材やサービスに拘り差別化を図っている。単発で行うシェフお任せコース（1名\$180）も、販売直後に40名以上の予約で完売するおとが多い。ここ2年未満でアジア系のお客も増え、客単価も徐々に上がっている。

新たな日本食文化をアリゾナで広げていくため、2023年の春にはギルバート市で2号店の出店を進めており、メニュー構成は「Sushi & Robata」。「今後、アリゾナ州で日本食を広げていくには「本物」を提供することが大切である」と話す。

TSMC従業員、および台湾人駐在員の妻（2023年5月）

現職員、および段階的に採用される従業員を含め4,500人が勤務することになるTSMCだが(参照/AZ Central: <https://www.azcentral.com/story/money/business/2022/12/07/what-to-know-phoenix-taiwan-semiconductor-factory/69707994007/>)、「施設内にフードコートが存在しない。近辺にアクセスがいいレストランもないことから、皆が昼食を持参している状況。気軽にテイクアウトできるサービス、フードトラックなどがあったら使うと思う。台湾人は日本食を好む人が多く、週末は美味しいレストランを試したくて、運転して遠くまで行くこともある。」

7. 現地ビジネスサポート (7.1)公的支援団体GPECのサービス

GPEC (Greater Phoenix Economic Council)/フェニックス都市圏経済協議会のサービス

GPECのビジネス開発専門家による、個々の必要性に合わせたサービスでフェニックスエリアのビジネス運用コストを削減し、各企業に付加価値を与える方法を提供する。

- 運用コストの比較
- 地域別の労働市場データ
- ビジネスロケーションの選定支援
- 主要リソースへの繋ぎ役
- 経済効果分析
- 広報支援



ABOUT GPEC

GPEC by the Numbers

Over the last 33 years GPEC has fueled the regional economy, racking up some impressive stats along the way.

950+
Regional Locates

174K+
High-Quality Jobs

\$36.6B
Capital Investment



7. 現地ビジネスサポート (7.2)ACA情報/各市の情報サイト

ACA (Arizona Commerce Authority)/アリゾナ商業公社

外国企業の進出支援も担当する州政府機関の経済開発局。製造業・サービス業への支援プログラムを幅広く実施する。

フェニックス都市圏の各主要都市ウェブサイト

City of Phoenix (フェニックス市)
<https://www.phoenix.gov/>

City of Scottsdale (スコッツデール市)
<https://www.scottsdaleaz.gov/>

City of Chandler (チャンドラー市)
<https://www.チャンドラーaz.gov/>

City of Tempe (テンピ市)
<https://www.tempe.gov/>

City of Surprise (サプライズ市)
<https://surpriseaz.gov/>

City of Peoria (ピオリア市)
<https://www.peoriaaz.gov/>

City of Goodyear (グッドイヤー市)
<https://www.goodyearaz.gov/>

8. 現地情報 (8.1)現地日系メディア・コミュニティー

アリゾナ日本企業懇話会(JBAA/Japanese Business Associaton of Arizona)

<https://jba-arizona.org/>

アリゾナの日本企業で働く人々の連携およびアリゾナと日本の相互理解と協力を計るために 1991年3月に発足。アリゾナ地域社会との融合を図りながら、日本企業の活動環境の改善、向上に努める。また日本語と日本文化の継承の重要性を認識し、アリゾナ学園（日本語補修校）への支援も行っている。

Oasis News

<https://www.acejapan.net/>

毎月、現地情報を提供するアリゾナ唯一の日系情報誌。

アリゾナ日本人会(Arizona Japan) Facebook Group

アリゾナ州に関する情報を気楽に交換するための場となっている。
メンバー数は現在のところ約 2,200名（2023年3月時点）

Meetup Phoenix Japanese Language and Culture Group

アリゾナ州在住の日系人、また仕事や学校で日本に住んだことがあったり、日本語、日本文化に興味がある米国人も多く所属するMeetupグループ。定期的に日本語学習会、お月見、盆踊り、新年会などの日本文化イベントを開催している。メンバー数 1,800名 (2023年3月時点)

AZ Japan BIZ

<https://azjapan.biz/news/>

アリゾナ生活情報ウェブサイト

8. 現地情報 (8.2)他アジア人コミュニティ

Arizona Asian American Association

www.arizonaasianamerican.org

アリゾナ州にアジアの文化を広めること、アジア人に暮らしやすい環境のサポートを目的として1998年に発足された非営利団体。毎年スコッツデール市で行われるアジアンフェスティバル (arizonaasianfestival.org)は1995年から続く。

Asian Chamber of Commerce Incorporated

asianchamber.com

アリゾナ州フェニックス市に本拠を置くアジア商工会議所。商工会メンバーにビジネスコンサルティングと技術支援、また一般市民とのビジネス、文化、教育面でサポートのサービスを行なっている。

ArizonaAsians.com

アリゾナ州在住のアジア人、アジア系米国人の情報交換場として使われる。
メンバー数9,500名（2023年3月時点）

台湾人在美國亞利桑那州

アリゾナ州在住の台湾人の Facebookグループ。
主にTSMC参入による駐在員とその家族が会員。メンバー数 3,600名（2023年3月時点）

台湾女人・人妻在亞利桑那州

アリゾナ州在住の台湾人女性のための Facebookコミュニティ。TSMC職員の配偶者メンバーが多数。
メンバー数1,200名（2023年3月時点）

8. 現地情報 (8.3)日本のイベント

アリゾナ祭り

<https://azmatsuri.org/>

フェニックス市で毎年2月に開催され、来年40周年を迎える日本のお祭り。お神輿にはじまり、太鼓の実演と体験、書道体験、茶道体験、日本伝統音楽演奏、日本舞踊、コスプレショー、けん玉とヨーヨー実演、合気道実演、雛人形や着物の展示など、日本文化や芸術を紹介するため、アリゾナ日本祭り実行委員会ほか、ボランティアにより企画・実施される。

2023年度はこれまで最多の80ブースが出展し、7万人の来場客で会場は大賑わいだった。

9. まとめ

アリゾナへの投資の魅力とそれに伴う日本食需要の拡大の可能性

人口740万人超えのフェニックスは1990年から2000年の人口増加が全米2位とその勢いは著しい。

アジア系住人の人口も過去30年着実な増加傾向にあり、世界最大手半導体メーカーTSMC参入による台湾人の莫大な人口増加をはじめ、2027年までに住民の割合が多種多様な人種グループで構成される州になることが予想される。

平均年齢も全米平均よりも低く、その理由として住宅価格が手頃なことや、通年通して楽しめる豊かな自然、芸術や文化、食文化、高水準の大学、教育機関が魅力的であることなどが挙げられる。

高度な技術人材とビジネスサービスが存在し、そして他の西海岸地域からのアクセスに適した位置にある低コストで規制の少ない運用環境があり、各企業の需要はとて高い。

フェニックス都市圏の産業には航空宇宙と防衛産業、電気自動車、さらには天災がほぼない環境を活かしたクリーンテック、サイバーセキュリティ、金融業務、ヘルスケア、ソフトウェアなど様々なビジネスが存在する。中でも半導体産業はアリゾナ州に適しており、上記で述べたTSMCに加え米国半導体大手のインテルも大型投資が相次ぐ。さらに同企業と取引のある日本企業が、新たにフェニックス市北部に参入し続けている。州政府及び自治体がインセンティブ付与や許認可手続きを含めて企業活動に非常に協力的である事実も後押しとなっている。

それに加え、台湾のディベロッパもアリゾナ州に目をつけ、2024年にはアジアスーパーマーケットやレストランがフェニックス市北側に入ってきた事により、フェニックス近郊都市全体でアジア系住人にとって、さらに暮らしやすい環境が整っていくことが予想される。また、こうした動きに伴い、今後急増するとみられるアジア系住人の旺盛な日本食に対するニーズを支えるため、アジアスーパーマーケットやレストランによる日本産食材の取り扱いの拡大が見込まれる。